

OPINION オピニオン・スライス SLICE

棋士

豊島将之さん

MASAYUKI TOYOSHIMA

—— 対コンピューター将棋「電王戦」
第3局、勝利おめでとうございます。
ありがとうございます。

—— コンピューターと戦うという
は、ふだんの対局とは違うもので
すか。

かなり違う感じがしました。ふだ
んの対局だと、準備したことが直接
その対局に生きるということは少な
いんですけども、コンピューター

との対局だと、準備がとても大事で
対局に生きてきます。コンピューター
と違って人間の優秀な能力は、大局
観という、ぱっと見たときに形勢を
瞬時に判断する能力ですが、逆に
読む量は、当たり前ですけど、コン
ピューターのほうが多く読めるん
です。将棋は終盤になると計算力が
すぐ物を言う世界になってきて、コ
ンピューターがとても得意な分野な

んですけども、それでも人間がコ
ンピューターよりも読み勝っている
ような部分もあります。そういう局
面というのは、絞り込んで考えるこ
とができる局面で、ちょっと専門的
な話になってしまいますけど、例え
ば自分のほうの王様は金を渡さな
ければ絶対に詰むことがないとい
う条件があったりすると、人間は
金を渡さないように寄せるという
ふうに絞



コンピューターに勝利した
人類最強の若手棋士

って読めますから、そういう条件がはっきりしているような局面になると、終盤はコンピューターの土俵なんですけど、それでも人間のほうが読み勝っているようなことも練習では何回かありました。こういう準備も今回の対局に生きました。

—— 将棋の天才が、公式戦を戦いながら、1000局に近い練習対局をされ、そしてその結果コンピューターの「ミス」を誘いました。これが凄いですね。

自分は才能にはそこまで自信がないので、しっかり練習しないと、というふうにいつも思っています。コンピューターの欠点といわれる点については、コンピューター側にとっても都合の悪い手というか、とても嫌な手があると、その手を先延ばしにするために、損な交換でも2手延びるので入れてしまうというのがあります。今回の対局では、コンピューターにミスが出たところでは、こちらがだいぶ有利で、ミスが駄目押しになった形でした。

あと、コンピューターは不利になっても勝負手というのは余り放たなくて、人間だと相手を脅かすためとか、一か八かの勝負に出るといふことが多いんですけど、コンピューターは悪くなるのを引き延ばすというか、我慢してくることが多いです。

—— コンピューターと闘い終えた今の感想は。

本当にコンピューターは強かったです。指していてとても勉強になりました。これから人間と戦うときにそれを生かしていきたいと思っています。でも、やっぱりちょっと人間同士とは別物なので、生かすまでに自分の中でコンピューターと指してきたものを消化するのに時間がか

かりそうですけど、そのうちそれが活きて自分が強くなるんじゃないかと思っています。

—— 棋士の方の棋譜を再現する、将棋の記憶力にいつも驚くのですが、一般的にも棋士の皆さんの記憶力はよろしいんですか。

人によるでしょうね。基本的に自分の興味があることとか好きなことは物すごくよく覚えていて、逆に



一般的に普通に常識として知られているようなことを忘れてしまったりすることもあります。将棋については、将棋の定跡とかを覚えようと思って覚えたことはなくて、たくさん指しているうちに自然と覚えたりするので、そこまで覚えようと意識してやっているということはないですね。

—— 影響を受けた棋士、歴史上最強の棋士、闘ってみたい過去の棋士について

影響を受けた棋士はアマチュア時代は谷川九段です。寄せの早さ、鋭さみたいところに憧れていました。奨励会有段者から棋士になって数年ぐらいいは、山崎隆之八段です。歴史上最強の棋士は、やっぱり羽生三冠ではないかと思います。過去の棋士で戦ってみたい棋士は、升田先生ですね。新しい手とかユニークな手が非常に多いので、自分が今の将棋をぶつけてどういう手が返ってくるのかを見たいです。

—— 棋士に対する三大有名質問（読み手数、将棋に強くなる法、羽生世代の強さの秘密）ですが、豊島七段はどう答えられますか。

詰め将棋の問題とかだと、100何手詰めとかも解けたことがあるので、読もうと思えば結構たくさん読めるんですけど、実際実戦で使うとなると10手ぐらいい先まで、せいぜい20手ぐらいいまでしか使うことはないですね。将棋に強くなるには練習を続けていかないといけないので、詰将棋を解くとか棋譜を並べる、とか色々ありますが、やっぱり自分の好きな勉強の仕方が一番長続きしているのではないかと思います。初級者から上級者のうちは詰将棋が一番効率よく強くなれる方法だと思います。羽生世代の方々は、10代、

20代のころにいろんなことを考えて、たくさんの局面を読むというか考えてきたということが蓄積されていって、今40代ですけど、経験で判断できるというふうになっていると思います。世代的にも、それまでの世代の方と比べて、読みを重視し、読みの量が格段に増えていて、また理論的に考えられているような感じがします。

—— 気分転換はどうされるのですか。

ふだんの練習のときだと、外に出て散歩したり家族と話したりすれば気分転換になるんですけど、対局のときは、ずっと考え続けるしかないですね。

—— 豊島七段は今、将棋界のホープとして人気がありますが、結婚の予定とか女流棋士とのロマンスとか聞かれるのではないですか。

確かにそういうのを聞かれることもありますけれども、困りますね。結婚の予定はないです。普段、自分はどちらかというと無口なので、楽しい話をたくさんしてくれて、将棋に理解のある人がいいかなあとと思っています。

—— 将棋マンガは読みますか。【3月のライオン】のモデルだという噂があります。

作者の方は別にそういうふうには言ってないと思うんですけど、僕も好きで全巻持って読んでいて、たまにちょっと自分に似てるなと思うようなこともあります。他に「月下の棋士」が好きでした。棋士の目からすれば、違和感がありまくりで、逆にそれが面白かったりしました。

—— 弁護士についてはどう思っていますか。

父親が弁護士なので、弁護士が頭がよさそうとか、たくさんお金を



稼いでいそうというイメージは余りないんですが（笑）。棋士は直接人の役に立つという仕事ではないのですが、弁護士は直接人の役に立つ仕事なので、とてもすばらしいと思います。

—— 棋士と弁護士の共通点はありませんか。

弁護士のことをちゃんと正確に分かっているかどうかはわかりませんが、弁護士は法律をたくさん学んで、過去にあった事例みたいなのをたくさん知っていて裁判とか交渉に臨まれると思うんですが、その場面、場面でこれまでの前例とはちょっと違うことには絶対なと思うんです。そのときにそれまで勉強してきたことを生かして考えて答えを導き出すみたいところなんです。将棋も定跡を知って、過去の対局を見ていって対局に臨むんですけど、絶対どこか違う場面に出会って、そこで自分の力で考えるというところがあるので、そういうところが似ていると思います。

—— 弁護士の将来について

最近では弁護士の人数が増えてき

ていると聞いているので、すぐに相談できたり、身近な存在になってほしいなというふうに思います。

—— 最後に、将棋界における将来の目標と今期の抱負を教えてください。

今期は、コンピューター戦で半年間練習してきたことを、対人間に置きかえても使えるところまで自分の中で消化して持っていきたいと思っています。あと、はっきりとした目標としては、A級に昇級することとタイトルを獲得することです。将来は、トップ棋士でずっと居続けたいというふうに思っています。

（Interviewer：大川一夫、阿部秀一郎）
Photo：高廣信之）

（注1） 3月15日から4月12日までの毎週土曜日に、コンピューターソフトと棋士（人間）が5対5の団体戦で戦ったが、棋士側の1勝4敗に終わった。この唯一勝を挙げたのが豊島七段である。本件インタビューは、4月2日に行われた。

（注2） 「水平線効果」と呼ばれるコンピューターの計算の限界を示す現象。コンピューター対人間の場合、普通、人がミスをし、コンピューターはミスをしないとされるが、豊島七段の場合は逆であった。豊島七段の才能とその入念な準備を多くの人が賞賛した。